

上海職業技術教育研究所

『上海市の職業教育に関する1996年度報告』

陸 素菊・沈 勤 訳

* 原文注は（ ）に、簡易な本文中の訳注は〔 〕に記した。相当の説明の必要な事項については文中に脚注番号を付し、巻末に別途解説文を用意した。なお、原著第3部の付録統計は割愛した。本文訳は陸が、図表の訳と作成は沈が担当した。

Translator: Lu Suju, Shen Qin
Graduate Students, School of Education, Nagoya University

Shanghai Institute of Vocational and Technical Education.
The Annual Report on Vocational Education of Shanghai (1996)

Contents

1. Overview
2. Scale
 - 2.1 The growth of the secondary schools
 - 2.2 The average scale of the secondary schools
3. Courses
 - 3.1 The courses of the secondary schools
 - 3.2 The number of the enrollment based on schools and courses
 - 3.3 The comparison between the courses structure and the industrial structure
 - 3.4 The direction of the courses reconstruction
4. Teachers
 - 4.1 The ratio of the full-time teachers
 - 4.2 The number of the students per full-time teacher
 - 4.3 The school graduation of the full-time teachers
 - 4.4 The vocational position of the full-time teachers
 - 4.5 The sum of the full-time teachers for each instructional subjects groups
5. Trends of the upper secondary education structure

第1部 職業教育の情況

1 概要

1996年度において中国の全国職業教育大会が開かれ、その後に『中華人民共和國職業教育法』(以下『職業教育法』という)が公布された。それによって、中国における教育制度¹⁾の一部である職業教育²⁾をいっそう発展させるためのしっかりした基礎が形成された。上海市政府の教育行政部門は、その良い機会として、『職業教育法』³⁾の内容とその意義を広範に宣伝、理解するために、積極的に職業教育の事業を発展させるよう努めてきた。例えば、職業学校の整備の強化、学校の設置の合理化、学校運営の効率化等の方面から職業教育の発展に力を入れ、また、社会主義市場経済⁴⁾に奉仕するために職業教育の改革も漸次推進し、様々な成果を上げてきた。

表0 1996年上海市の中等職業教育学校の基本的状況

単位：人

年	生徒募集数	在校生数	教師職員総数	教師数	卒業生数	就業率
中専(中師を含む)	31947	99214	15329	6173	21640	93%
技工学校	19022	47397	12030	5402	16014	
職業学校	35409	91232	6438	3613	25247	95%
合計	86378	237843	33797	15188	62901	

(1) 『職業教育法』に基づいて今後の職業教育を推進するための広範な宣伝活動

- ①『職業教育法』が正式に実施される1996年9月1日においては、上海市副市長（教育の主管市長）はテレビの番組で『職業教育法』を積極的に実施し、上海市の職業教育を新たな段階に推進しよう」と題する演説を行った。
- ②上海市『職業教育法』宣伝団が組織され、各区・県及び各業界（企業界）を巡回して宣伝活動を行った。宣伝対象は教職員だけでなく、政府の関係責任部門、司法機構及び企業現場の責任者にも及び、累計1万人を越えた人々に、30余回の宣伝と説明を行った。
- ③『職業教育法』を実施する具体的方法である『上海市「中華人民共和国職業教育法」の実施に関する若干規定』（法案）が、市政府行政法規として、1996年度の立法企画の中に入り、専門起草グループを組織して調査研究を始め、「法案」の骨組みが一応できるという段階になった。

(2) 職業教育事業の量的発展⁹⁾、全体的な効率の向上

1996年までに、上海市の職業教育学校⁶⁾は全部で312校である。そのうち、中等師範学校を含む中等専門学校⁷⁾ [中国語では「中等专业学校」という、]（「中専」と略称する）99校、技術労働者養成学校⁸⁾ [技工学校という]（技工と略称する）142校、職業高校⁹⁾（職校と略称する）71校、在校生24万人、職業教育教職員は3万4千人。学校ごとに生徒数は、1995年の600余人から764人に増加し、教師対生徒の比率は1：16となった（表0と図表1を参照）。

(3) 学校施設の整備・充実、学校運営の効率化

- ①職業教育の重点整備という第3期第2回目の項目 [この「重点整備」の項目は上海市の職業学校の「重点化」という動きの一つ施策である] として、19校の職業教育の実習施設を設置した。また、機械・電気関係学科を中心とする上海市職業教育実習訓練センターも建設し始めた。1996年までには、上海市職業教育に重点整備項目はすでに106項目に達した。本年度の重点整備項目においては、産業別から見れば、第1次産業に属するものは、主に近代化農業の2項目であり、第2次産業のものは機械電気一体化・交通・建築・冶金など13項目で、第3次産業のものは、主に美容理容・飲食・旅行サービスなどの5項目である。全体的に、以上の重点整備項目の水準は企業事業体の実際の運営システムに比べて見れば、相当のレベルに達したといえる。
- ②10校の中等専門学校・職業高校に対する学校運営の実績評価を行った。建設中の職業高校2校に対する審査評価を行い、その合格結果によって、2校を正式に登録し、生徒募集も許可した。また、『合作弁学の暫定規定』 [「合作弁学」は中国語の表現で、一般に中国と外国間の国際的學校を運営することを指す] に基づき、規則違反した太平洋職業学校に対する学校運営の停止を強制した。

(4) 教育課程¹⁰⁾の改革によって、教授〔中国語は「教学」という〕過程の質を高めた。

- ①教育課程の改革と教材の構成を積極的に推進した。教育界の著名人物・学者・専門家・関係行政側及び企業界代表などの67名委員をメンバーとして、上海市職業教育課程改革と教材建設委員会が設立された。さらに、職業教育教材の編集・翻訳グループ(CBE, MES, ドイツのデュアルシステムに分け)¹¹⁾、また、学科別教材編集・審査委員会(即ち商業、機械、都市農業、電気電子、電力など5種類の学科)、及び普通教育学科別編集グループ(つまり、職業道德・就職指導、実用国語、数学、外国語、実用コンピュータ、体育と保健、芸術鑑賞、総合理科Ⅰ、総合理科Ⅱ)もそれぞれ設立された。
- ②教師の素質を向上するために、職業教育教師を動員し、教授実践に対する相互評価・交流活動を行った。成果としては、2,000余名の教師が第2回目の中等専門学校教授法の内容で相互評価・交流活動、また職業教育青年教師の授業活動競技試合に参加し、150名教師が優秀賞を獲得した。
- ③第6回目の「未来建設者」という生徒の実技試合大会を主催し、近年の職業教育の成果が相当程度展示された。試合大会は、旅行・商業・服装・電子・機械・自動車修理・会計など7大学科を含む31項目で、参加した生徒が3,200余名である。結果としては、61校の職業高校・中等専門学校が団体優秀賞、319名生徒が個人優秀賞を獲得した。その上、政策の動きとしては『上海市中等職業学校卒業生が実用コンピュータ・実用英語・英文タイプの三つ実技審査に関する規定』が制定された。さらに、『規定』の通り、全市範囲において、三項目の実技審査が2回行われ、68,000余名の生徒が合格証書を得た。
- ④新設の63学科(専門化を含む)に対する検討・審査・許可、または学校外の職業教育拠点に対する個別検査を実施した。その上、全市の職業教育学校の既存学科と新設学科のリスト(目録)を作成した。

(5) 上海市の高等職業教育¹²⁾の積極的推進

「統合的に計画し、合理的に学校を配置し、地方の要請に向けて積極的に実験を行い、特色を持つ高等職業教育を次第に規範化する」という原則が立てられ、現有教育資源を十分に利用し、現有大学〔中国語は「高校」という〕の改革・改組〔学校組織の改善という意味〕・改制〔学制の調整のこと〕という改革措置を通して、高等職業教育の学校配置を調整することになった。さらに、『上海市の高等教育構造の改革に伴う高等職業教育の発展について実験案』が制定され、国家教育委員会の審査・批准によって、公布された。

さらに、上海市高等職業教育の協力・指導グループが設立され、高等職業大学・学院の校長研修クラスが開催された。また、職業大学・学院に対する学科評価を行い、1997年学生募集計画を統計・報告した。

(6) 教師の養成・訓練の強化

- ①国家教育委員会と市教育委員会の指導の下、中等専門学校・職業高校・技工学校という3種類の中等職業学校の教師に対して資格を認定した。結果的に全部で16,760名の教師の資格認定証書の発行を行った。
- ②1996年度の第2回目新設した5個所の訓練拠点を含め、全部で13個所の職業教育教師の養成訓練拠点が設立された。それによって、上海市はすでに合理的な職業教育教師養成・研修ネット

ワーク¹⁰を形成している。以上の施設において、1996年に全部で33クラス、計958名の教師が研修を受けた。

- ③職業教育教師の研修の道を広げ、引き続き同済大学の職業教育学院に機械電気一体化とコンピュータ応用という二つの学科を開設して、中等専門学校と職業高校の優秀な生徒51名を入学させ、教師研修を行った。これで、職業教育教師の不足状態が多少緩和された。

(7) 徳育の強化と改善

- ①上海市職業道德の教育宣伝団が成立され、先駆けとなった人物を招いて、教職員・生徒達に対する特別講演会が行われた。それに、その講演会をビデオに制作し、各職業学校で放映し、広く宣伝効果を収めた。
- ②上海市精神文明〔中国では「物質文明」に相対する用語として、主に思想・教育・道德・風習と科学・文化等含んだ人類社会における累積してきた精神的富であることを指す〕の建設に関する研究課題として、「上海市中等職業学校の職業道德の教育に関する現状と対策」という課題研究が終了した。

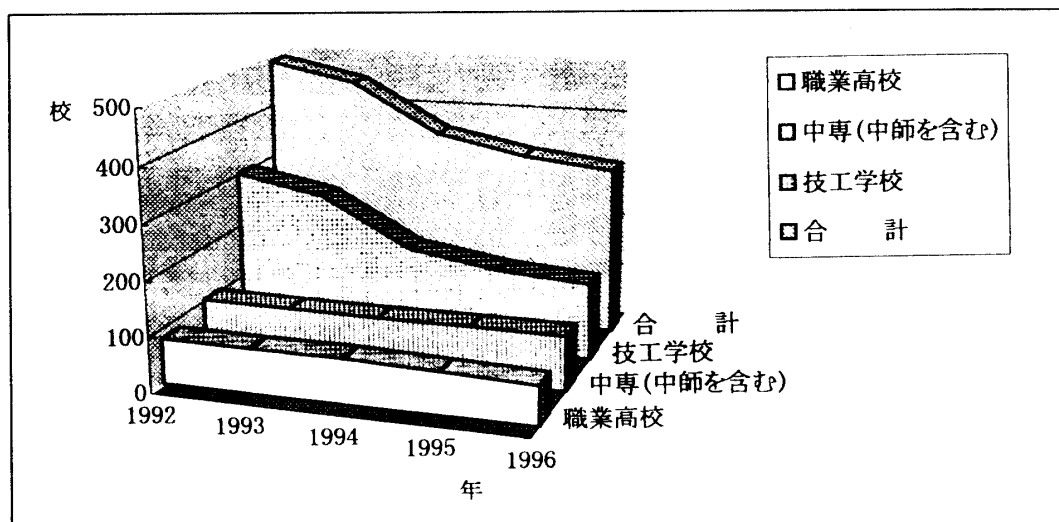
(8) 外国職業教育に学ぶ国際間交流の重視

- ①中国とドイツ政府との協同課題〔中国語は「合作項目」という〕として、「企業連合体における訓練センター」が両国の協力で建設された。「センター」において、両国合資企業・ドイツ系企業の要求に基づいて、27クラスで、計500名従業員に対する職業教育・訓練を行った。
- ②主に区・県教育行政責任者と学校長をメンバーとする考察団を組織し、カナダへの職業教育の見学を行った。
- ③オーストラリアとの協同で設立した職業学校に対して、学校運営の実態を考察・検討し、今後

図表1 上海市の中等職業教育学校数

単位：校

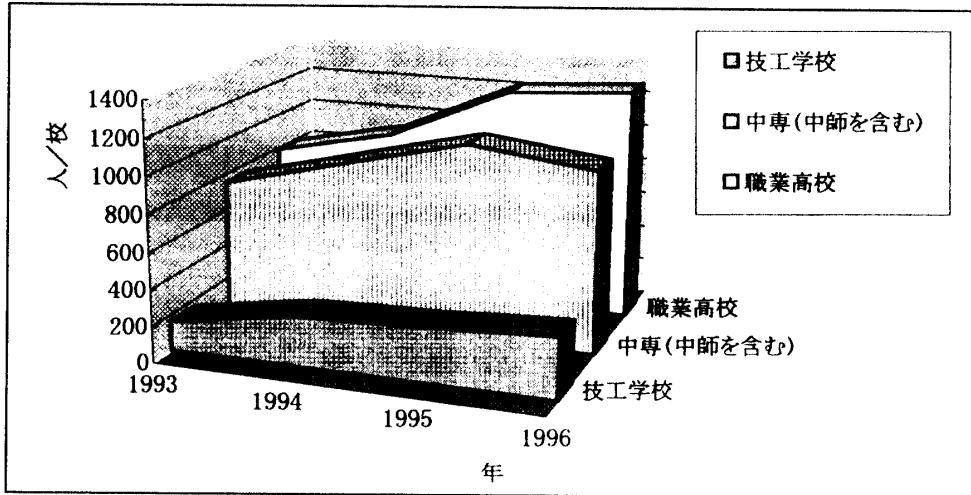
年	1993	1994	1995	1996
中専(中師を含む)	102	101	100	99
技工学校	302	270	154	142
職業学校	82	81	76	71
合計	486	452	330	312



図表2 上海市の中等職業教育学校の平均在校生数

単位：人／校

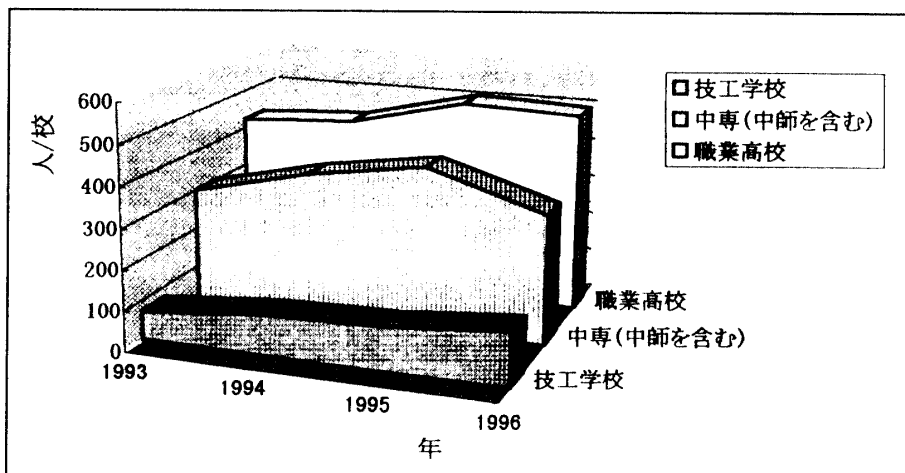
年	1993	1994	1995	1996
中専(中師を含む)	751	923	1085	1002
技工学校	162	275	297	334
職業学校	789	931	1235	1285



図表3 上海市の中等職業教育学校の平均生徒募集数

単位：人／校

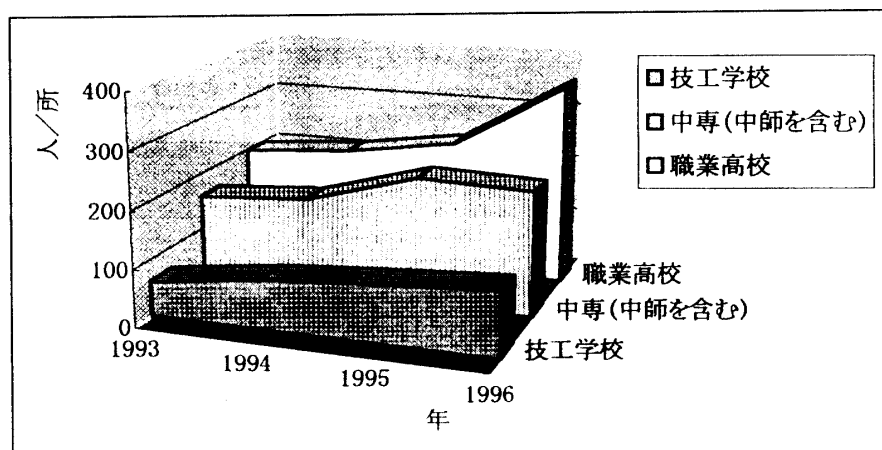
年	1993	1994	1995	1996
中専(中師を含む)	299	368	412	323
技工学校	73	100	108	134
職業学校	423	440	509	499



図表4 上海市の中等職業教育学校の平均卒業生数

単位：人/校

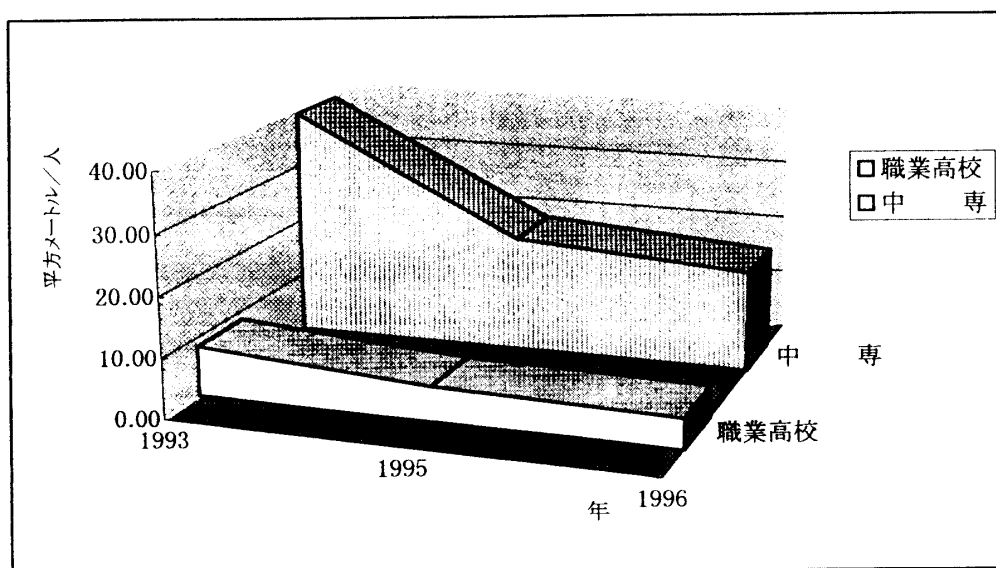
年	1993	1994	1995	1996
中専(中師を含む)	158	171	226	219
技工学校	61	87	101	113
職業学校	197	211	240	356



図表5 上海市の中等職業教育学校の生徒一人当たり校舎面積の状況

単位：平方メートル/人

年	1993	1994	1995
職業学校	8.50	5.81	5.00
中 専	39.30	19.70	17.04



国際協同が順調に展開するために指導を強めた。

2 学校の規模

2-1 中等職業学校（中専、技校、職校）の発展状況

上海市の中等職業学校は近年の改革・調整によって、学校数が年々減る一方、学校ごとの学生数が次第に増加している。中等職業教育学校数は、1992年の486校から1996年の312校になった。そのうち、特に技工学校が、1992年の302校から、1996年には、142校に激減した。そして、中等専門学校と職業学校もそれぞれ1992年の102校と82校から、1996年の99校と71校になった(図表1を参照)。なぜかと言えば、都市機能の転換、産業構成の変化につれ、必然的に企業が大きな影響を受けたからである。産業界ないし労働部局に属する技工学校は、[教育行政に所属する] 中等専門学校と職業学校とはかなり違って、市場原理によるところが大きいといえる。

2-2 中等職業教育学校（中専、技校、職校）の学校の平均規模

2-2-1 学校平均の在校生規模

近年中等職業教育学校は学校ごとの学生数の増加が明らかである。そのうち、中等専門学校と職業高校は1993年度それぞれ751人と789人であるが、1996年になると、それぞれ1002人と1285に上昇した。それは中等専門学校1校あたり1000人、職業高校は1校あたり800人という最低国家基準よりはるかに超えている。しかし、技工学校の場合は1校あたり400人の国家基準に比べ、1校あたり334人で、かなり低くなっている。また、中等専門学校の学生数が低迷状態になりつつあるが、その改革はますます進行していると考えられる(図表2を参照)。

2-2-2 学校平均の生徒募集規模

1996年上海市中等専門学校の学生募集数は31,947人で、1995年より、22.5%の減少であるが、技工学校は19,022人で、1995年に比べ、15%増加した。職業高校35,409人で、1995年より0.58%減った(図表3参照)。

2-2-3 学校平均卒業生規模

1996年中等専門学校の卒業生は21,640人で、1995年より4.25%が減少したが、技工学校は16,014人で3%が増加、とくに職業学校は25,247人であり、38.3%が増えた(図表4を参照)。

2-2-4 生徒一人あたり校舎の保有状況

大都市にあるという実情があるので、学生一人当たりの校舎面積が少なすぎることは深刻な問題となっている。中専生の場合は1993年の39.3平方メートルで、国家基準46平方メートルの85%となっているなど、最低基準より低くなっている学校数は66校で、全部の学校の65.3%を占めている。しかも、それらの学校は今後拡大する可能性がほとんどないという実情で、1人に当たり校舎の面積がますます減少しつつである。例えば、職業高校の場合、1996年のそれは1993年の58.8%、中等専門学校は1993年の43.3%となっている(図表5を参照)。

3 学科の設置状況（中等専門学校の場合）

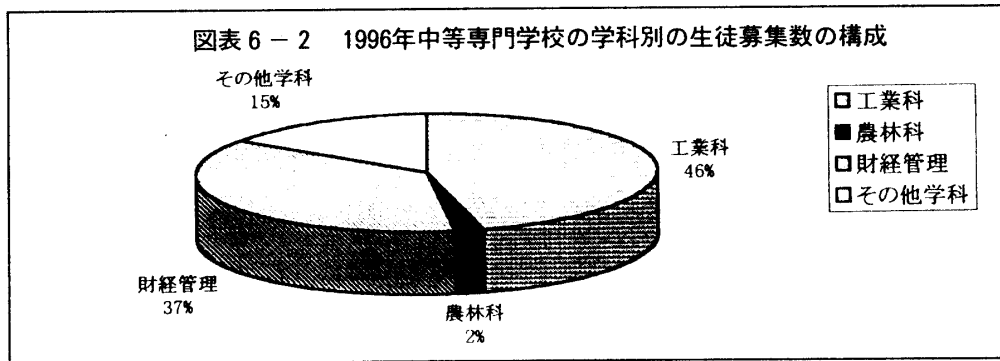
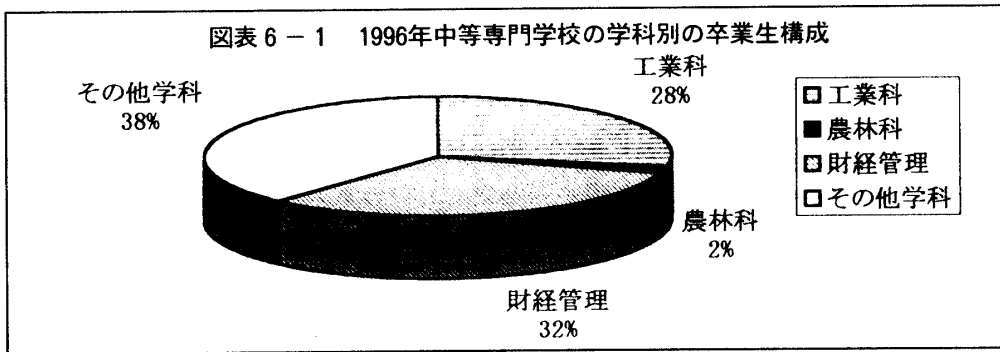
3-1 中等専門学校の学科分布

1996年度において、工業、医療衛生、財務・会計[中国語は「財經」という]、管理、師範が5大学科として、卒業生規模または募集数においては、9割以上を占めている。もちろん、95年、96年

図表6 中等専門学校における学科別の生徒分布

単位：％

学 科	工業	農業	林業	医衛	財経	管理	政法	芸術	体育	師範
1995年卒業生数	27.54	1.09	0.41	14.55	23.76	15.61	3.31	1.36	0.19	12.19
1995年生徒募集数	34.32	0.73	0.34	6.46	23.43	22.52	2.05	2.31	1.21	6.64
1996年卒業生数	28.46	1.36	0.78	15.60	20.15	12.10	4.10	1.39	0.44	15.62
1996年生徒募集数	46.37	1.01	0.57	7.96	17.96	18.97	0.80	2.97	0.48	2.91



の2年間に多少微妙な変化も示されている（図表6、図表7を参照）。

3-2 中等専門学校の学校別と学科別の在校生数の比較

統計に示されたように、管理関係と財務・会計（財経）関係の卒業生が第三次産業においては、良質の若手労働者または技術者を提供する重要なルートとなっている。1995年度、財経・管理2大学科の在校生はそれぞれ在校生数の24.27%、19.77%を占めている。1996年度は多少の減少があるが、その比率がそれぞれ19.08%と18.04%となっている。

3-3 中等専門学校の学科構造と産業構造の比較

中等専門学校の学科構造と産業構造と労働力の構成とは緊密な関係があるので、職業教育の学科は産業または労働力の要請に適応して設置しなければならない。そして、産業構造の調整、労働力構成の変化に伴って、職業教育の学科もその産業経済の労働力要請に応じて変化しなければならない。関係する学科の学生募集数が関係する産業部門のGDP中の位置や労働力の要請に対応することについては、図表8、図表9、図表10に示されたように、第一次産業、第二次産業ではほとんど対応できていなくて、第三次産業では必要以上に関係学科が設置されていたが、1996年になると逆に対応できない傾向がうかがえる。

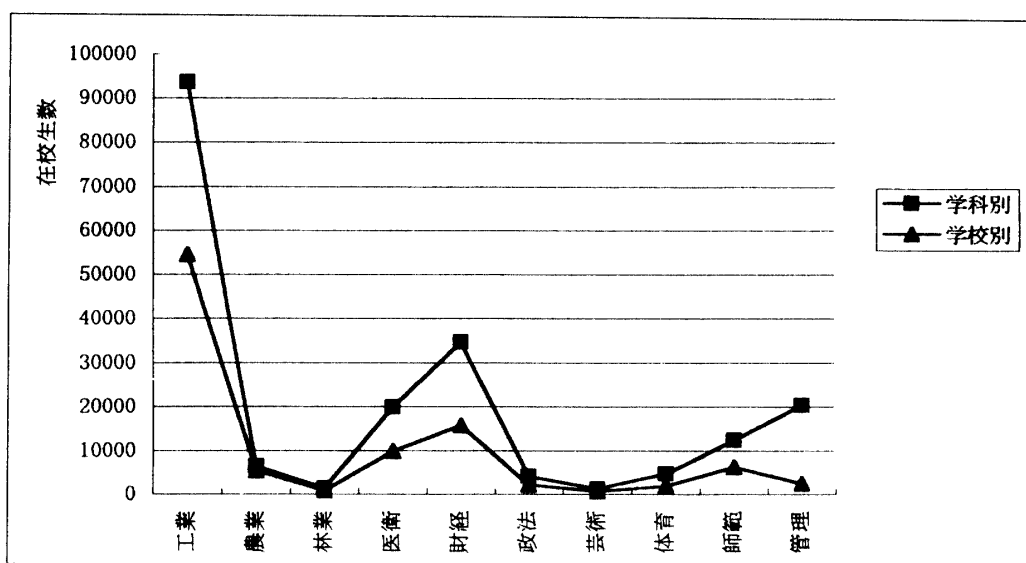
図表7 上海市の中等専門学校の学校別と学科別の在校生数

単位：人

学校別	工業	農業	林業	医衛	財經	政法	芸術	体育	師範	その他
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1995年	45678	4856	677	10630	12905	2762	863	1671	8912	19567
1996年	54475	5301	684	9801	15695	2101	615	1844	6228	2470

学校別	工業	農業	林業	医衛	財經	政法	芸術	体育	師範	管理
	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
1995年	33556	1029	677	10895	26342	2643	863	2394	8670	21452
1996年	39020	1054	684	10117	18926	1985	615	2884	6028	17901

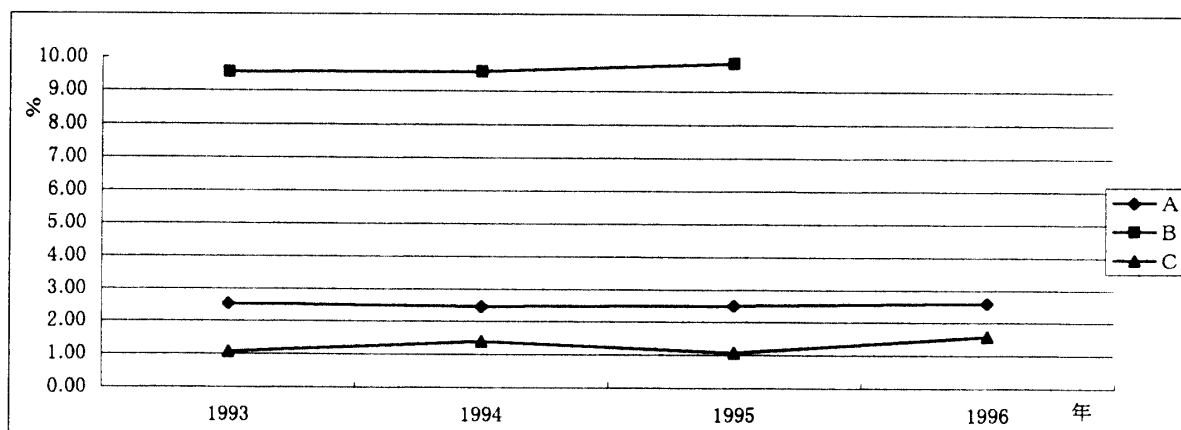
1996年上海市の中等専門学校の学校別と学科別の在校生数の比較



図表8 GDPの中の第一次産業の比率、第一次産業の労働力比率、中等専門学校の農林科の生徒募集数比率の比較

単位：%

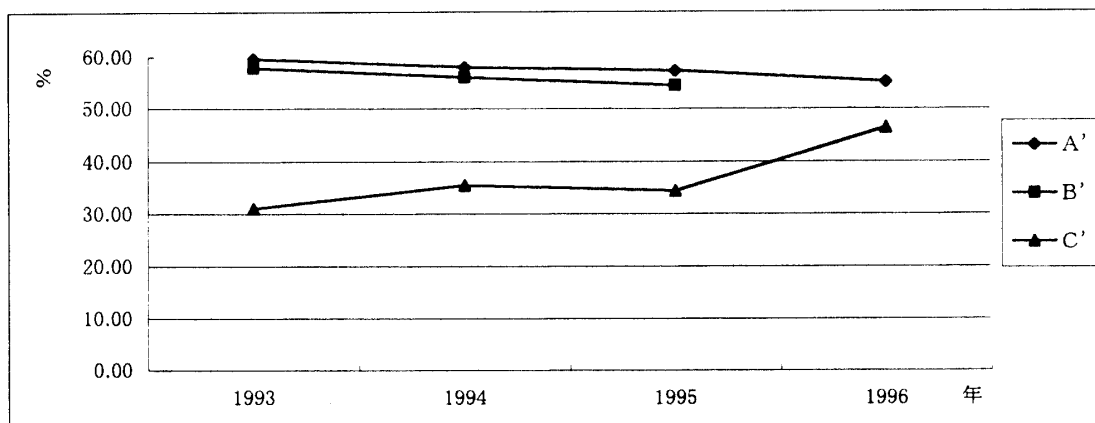
年	GDPの中での第一次産業(A)	第一次産業の労働力(B)	中専農林科の生徒募集数(C)
1993	2.53	9.55	1.06
1994	2.46	9.58	1.39
1995	2.50	9.85	1.07
1996	2.60		1.58



図表9 GDPの中の第二次産業の比率、第二次産業の労働力比率、
中等専門学校の工業科の生徒募集数比率の比較

単位：％

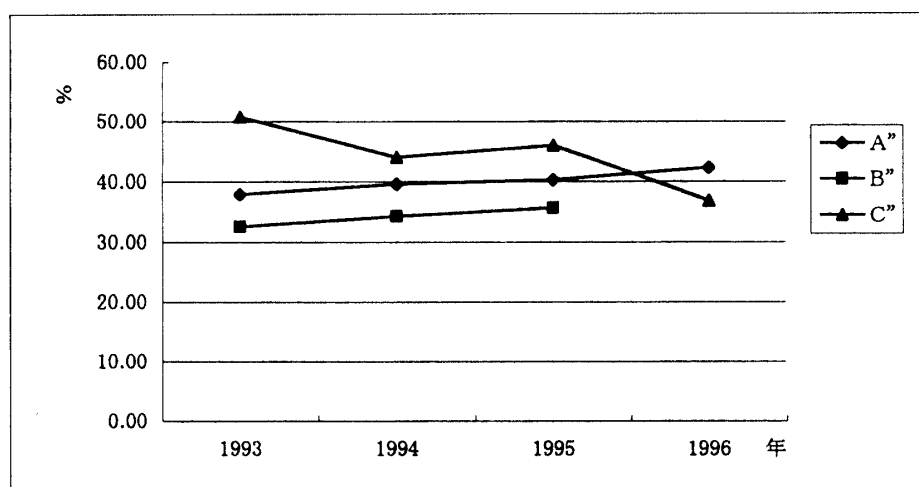
	GDPの中にの第一次産業(A')	第一次産業の労働力(B')	中専工業科の生徒募集数(C')
1993	59.56	57.86	31.00
1994	57.98	56.08	35.44
1995	57.30	54.47	34.32
1996	55.20		46.37



図表10 GDPの中の第三次産業の比率、第三次産業の労働力比率、
中等専門学校の財務管理類学科の生徒募集数比率の比較

単位：％

年	GDPの中にの第三次産業(A'')	第三次産業の労働力(B'')	中専財経管理科の生徒募集数(C'')
1993	37.91	32.59	50.80
1994	39.56	34.34	43.97
1995	40.25	35.68	45.95
1996	42.20		36.93



3-4 学科構造の調整方向

学科の構造的な調整は、産業構造に適応しなければならない。上海市は1993年から産業構造に対する戦略的な調整をはじめた。いわゆる第1次産業は穏やかに向上、2次産業は積極的に調整、第3次産業は大いに発展させようという戦略的な方針を打ち上げた。また、経済体制は重大な転換期を迎え、経済と社会は全体的に急速発展するという歴史段階に入ってきた。予測によると、1995年度において、上海市の第1次、第2次、第3次産業の労働力の構成比は1:5.53:3.62であるが、2000年に至ると、その構成比は1:6:5.5となる。とくに第3次産業の金融保険、商業貿易、郵政・電信・通信、旅行サービスなど高水準の部門は、これから上海市経済発展の主要な原動力となることは間違いない。上海市統計局の統計によると、上海市における1996年度の第3次産業の〔生産〕増加額のうち、金融保険業は324億元で、第3次産業の26.7%を占めているが、1994年より26.6%の増加になった。商業・飲食業と物質（供給と）販売業の増加額は315.84億元、比率26%、年増加率11.9%である。また、運輸郵政電信業はそれぞれ、増加値190.92億元、比率15.7%、年増加率8.3%であった。第2次産業のうち、自動車・現代通信設備・鉄鋼・石油化学および精密化学工業、大型電話設備・家庭用電器など支柱的産業が、次第にその深度、精度、高度化の方向へと発展し、国際的な水準に接近し、現代通信・マイクロ電子・新型材料・生物工程・コンピュータ及び宇宙工業など新たな支柱産業が形成しつつである。

また、産業構造の要請によって、上海市職業教育における財経関係・管理関係・商業貿易関係・旅行サービス関係など学科の生徒募集数が年々に増加している。2000年になると、10ポイントの上昇、2010年にまた5ポイントの増加との予測がある。第2次産業の職種（工種）構造は次第に熟練技術技能訓練から、ハイテクと情報技術を主とする構造へと転換しなければならない。そのため、ハイテク的外向的技術・経済に適応する学科または学校を発展・増設し、高水準の職業技術人材を育成しなければならない。

4 教師の状況

4-1 専任教師の教職員総数に占める比率

1996年上海市中等専門学校の教職員の数は15,329人で、1995年より5.86%の減少である。その中に専任教師が6,173人で、1.99%減少である。技工学校の教職員は12,030人、年に9.72%の減少で、うち専任教師は5,402人、年に8.63%減少した。しかし、職業高校の教職員は6,438人、年増加率は5.34%で、うち専任教師は3,613人、年増加率は4.36%となった（図表11-1、図表11-2、図表11-3を参照）。

4-2 専任教師と生徒の比率

1996年上海市中等専門学校の在校生は99,214人で、1995年に比べて8.58%の減少であったが、技工学校と職業高校はそれぞれ47,397人と91,232人で、1995年に比した増加率はそれぞれ3.62%、5.54%であった（図表12-1、図表12-2、図表12-3を参照）。

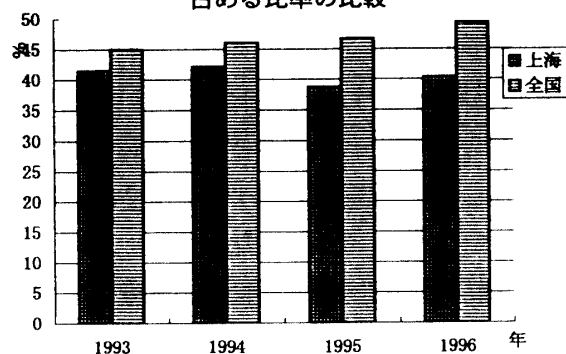
4-3 専任教師の学歴状況

1996年中国における中等専門学校の専任教師の学歴合格〔合格とは4年制大学卒であること〕率は64.74%、職業高校は31.2%であるが、上海は全国の水準に比べて、かなり高いレベルにある（図表13を参照）。

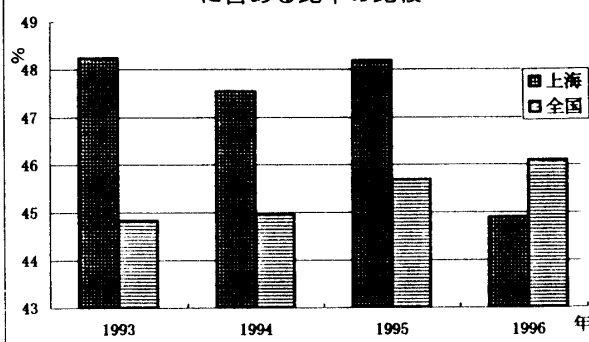
図表11 専任教師の教職員総数に占める比率
単位：%

年	中 専		技工学校		職業学校	
	上海	全国	上海	全国	上海	全国
1993	41.45	44.97	48.24	44.84	50.29	65.99
1994	42.11	46.00	47.54	44.96	52.21	66.61
1995	38.73	46.65	48.18	45.69	53.81	67.28
1996	40.27	49.26	44.90	46.10	56.12	68.11

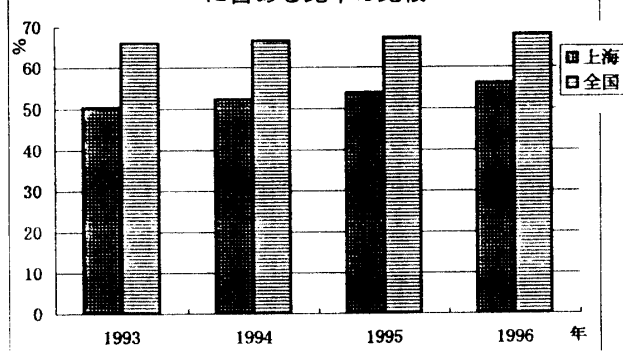
図表11-1 中専専任教師の教職員総数に占める比率の比較



図表11-2 技工学校専任教師の教職員総数に占める比率の比較



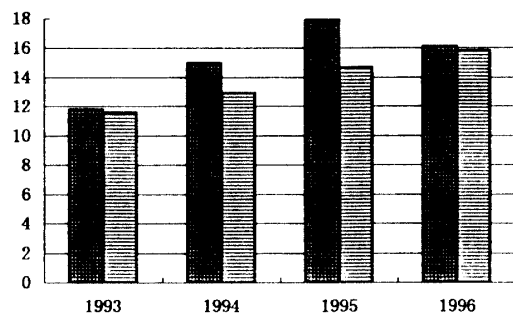
図表11-3 職業高校専任教師の教職員総数に占める比率の比較



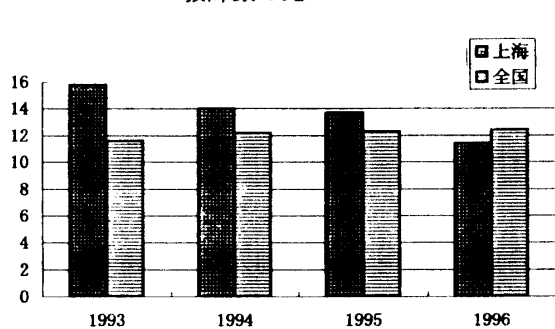
図表12 生徒数と専任教師数の比
専任教師を1とする

年	中 専		技工学校		職業学校	
	上海	全国	上海	全国	上海	全国
1993	11.8	11.6	15.8	11.6	23.7	13.4
1994	15.0	12.9	14.0	12.2	25.7	14.2
1995	17.9	14.7	13.7	12.3	27.2	15.4
1996	16.1	15.8	11.4	12.4	25.3	14.7

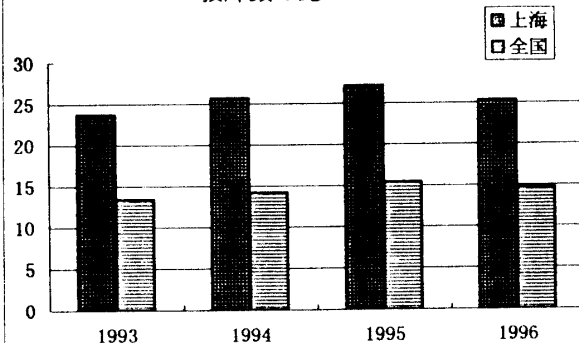
図表12-1 中専における生徒数と専任教師の比



図表12-2 技工学校における生徒数と専任教師数の比



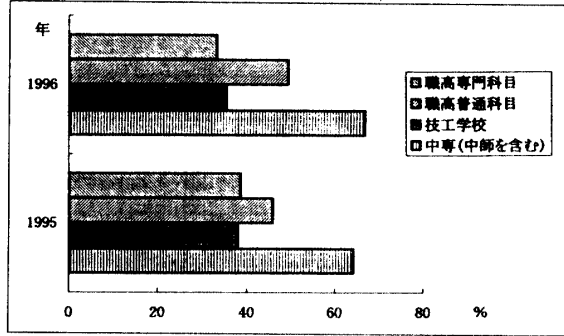
図表12-3 職業高校における生徒数と専任教師数の比



図表13 専任教師の学歴試験の合格率

単位：%

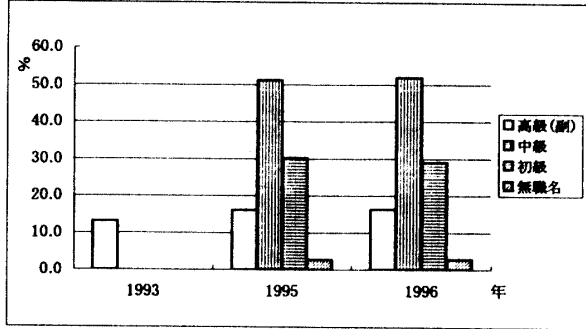
年	中専(中師を含む)	技工学校	職業学校	
			普通科目	専門科目
1995	64.4	38.2	46.1	38.8
1996	67.0	35.6	49.5	33.4



図表14 中等専門学校における専任教師の職階構成

単位：%

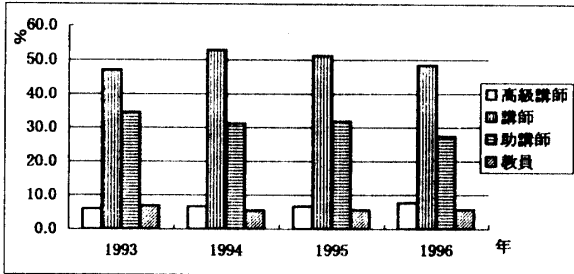
年	高級(副)	中級	初級	無職名
1993	13.0			
1995	16.0	51.1	30.2	2.7
1996	16.3	51.9	29.0	2.8



図表15 技工学校における普通科目・基礎科目の専任教師の職階構成

単位：%

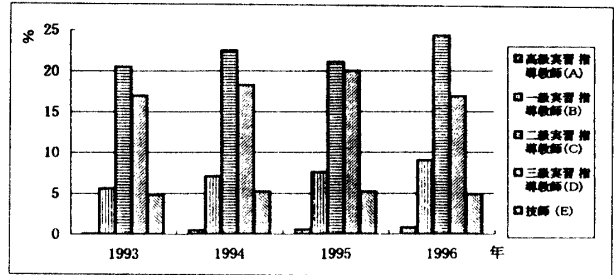
年	高級講師	講師	助教	教員
1993	5.9	47.1	34.6	6.9
1994	6.7	52.8	31.2	5.5
1995	6.6	51.1	31.9	5.6
1996	7.7	48.5	27.3	5.7



図表16 実習指導教師の職階構成

単位：%

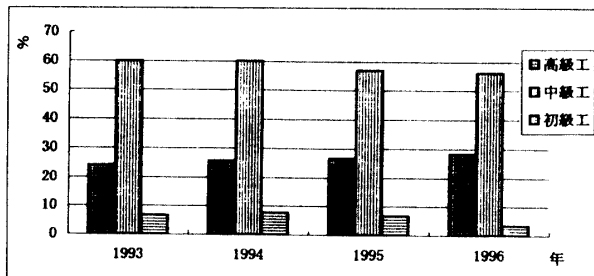
年	高級実習指導教師(A)	一級実習指導教師(B)	二級実習指導教師(C)	三級実習指導教師(D)	技師(E)
1993	0.1	5.6	20.5	17.0	4.8
1994	0.5	7.1	22.5	18.3	5.2
1995	0.6	7.6	21.1	20.0	5.2
1996	0.8	9.0	24.3	16.9	4.9



図表17 技工学校における実習指導教師の職別構成

単位：%

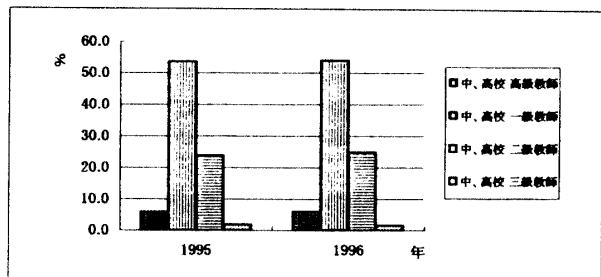
年	高級工	中級工	初級工
1993	24.1	60.0	6.7
1994	25.6	60.1	7.8
1995	26.7	57.1	6.7
1996	28.3	56.3	3.4



図表18 職業高校における専任教師の職別構成

単位：%

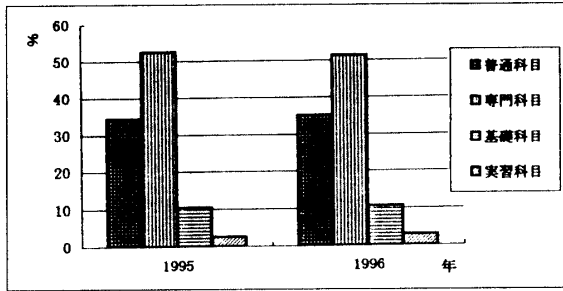
年	中, 高校 高級実習	中, 高校 一級教師	中, 高校 二級教師	中, 高校 三級教師
1995	5.8	53.7	23.9	1.9
1996	6.0	54.1	24.9	1.6



図表19 中専学校の普通科目教師、専門科目教師、基礎科目教師、実習指導教師別構成

単位：％

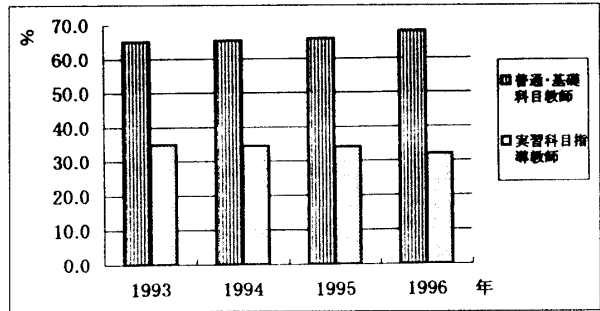
年	高級講師	講師	助教師	教員
1993	51.6		48.4	
1995	34.4	52.5	10.5	2.6
1996	35.1	51.3	10.6	3.0



図表20 技工学校における普通科目・基礎科目教師と実習科目指導教師の比

単位：％

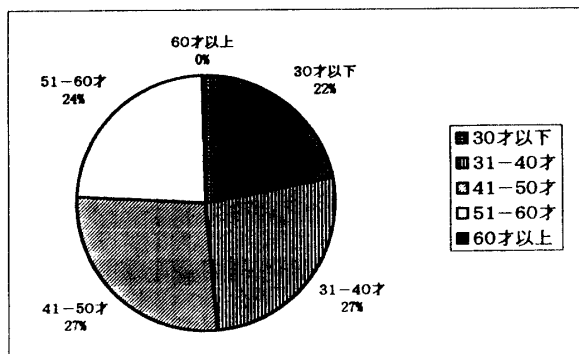
年	1993	1994	1995	1996
普通・基礎科目教師	65.1	65.4	65.9	68.0
実習科目指導教師	34.9	34.6	34.1	32.0



図表21 中専（中師を含む）教師の年齢構成

単位：％

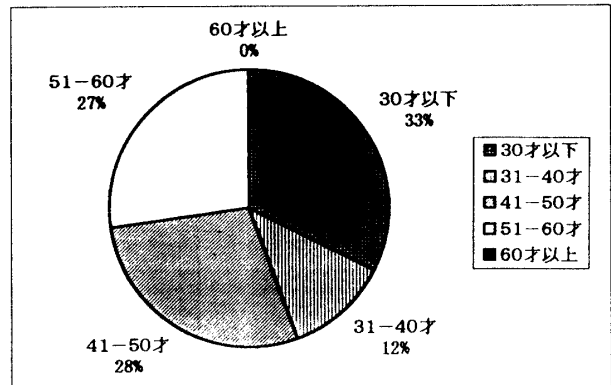
年	30歳以下	31-40歳	40-50歳	51-60歳	60歳以上
1995	22.5	25.8	26.8	24.4	0.5
1996	21.9	26.7	27.1	24.1	0.2



図表22 職業高校における教師の年齢構成

単位：％

年	30歳以下	31-40歳	40-50歳	51-60歳	60歳以上
1995	31.2	9.0	34.5	24.9	0.3
1996	32.5	12.0	28.3	27.2	0.0

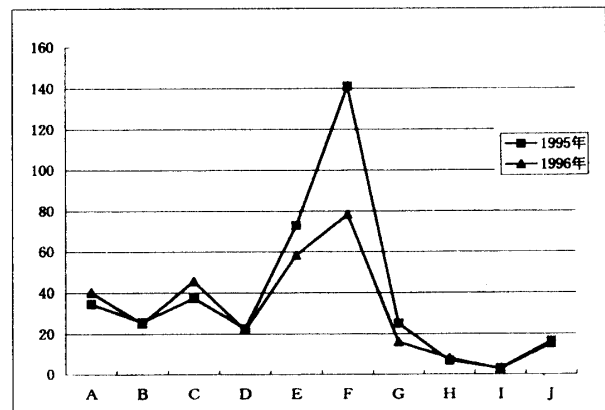


図表23 中専における学科別の生徒数と専任教師数の比

専任教師数を1とする

年	工業	農業	林業	医衛	財經
	A	B	C	D	E
1995	34.6	25.7	37.6	22.6	72.8
1996	40.2	25.1	45.6	21.9	58.1

年	管理	政法	芸術	体育	師範
	F	G	H	I	J
1995	141.1	25.2	6.7	2.8	16.4
1996	78.2	15.9	7.9	2.6	15.1



4-4 専任教師の職階別構成状況

4-4-1 中等専門学校の専任教師の職階〔中国語は職称という〕構成

1996年上海市中等専門学校の専任教師の職階構成状況については、『1993年上海教育』と上海市教育委員会の統計資料によって作成した図表14を参考する。

4-4-2 技工学校の専任教師の職階構成状況

4-4-2-1 基礎科目〔中国語は「文化技術理論課」という〕教師

1996年上海市の技工学校において、基礎科目教師は3,671名で、専任教師の68%を占めており、それらの教師の学歴合格率は48.5%である（図表15を参照）。

4-4-2-2 実習〔中国語は生産実習〕指導教師

1996年上海市技工学校の実習指導教師が1,731名で、専任教師の32%を占め、それらの教師の学歴合格率は8.1%である（図表16、17を参照）。

4-4-3 職業高校の専任教師の職階構成（図表18を参照）

4-5 専任教師の科目別構成

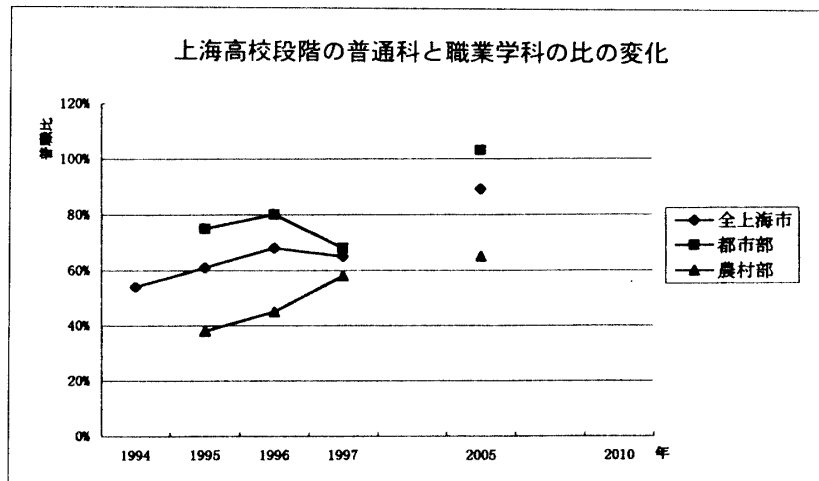
4-5-1 中等専門学校の普通科目・専門科目・基礎科目・実習指導の各教師の比較（図表19を参照）

図表24 1994-1996年上海高校段階の普通科と職業学科の比

年		1994	1995	1996
普 職 比	全上海市	0.54 : 1	0.61 : 1	0.68 : 1
	都市部		0.75 : 1	0.80 : 1
	農村部		0.38 : 1	0.45 : 1

図表25 1997-2010年上海高校段階の普通学科と職業学科の比の予測

	1997-2004 (平均)			2005-2110 (平均)		
	普通学科 生徒募集数	職業学科 生徒募集数	普 職 比	普通学科 生徒募集数	職業学科 生徒募集数	普 職 比
全上海市	6.3万人	9.7万人	0.65 : 1	4.1万人	4.6万人	0.89 : 1
都市部	5.0万人	7.4万人	0.68 : 1	3.0万人	2.9万人	1.03 : 1
農村部	1.3万人	2.3万人	0.58 : 1	1.1万人	1.7万人	0.65 : 1



4-5-2 技工学校の基礎科目の教師と（生産）実習指導教師の比較（図表20を参照）

4-5-3 教師の年齢構成

4-5-3-1 中等専門学校の教師の年齢構成（図表21を参照）

4-5-3-2 職業高校の教師の年齢構成（図表22を参照）

図表の21、22の通り、中等専門学校の教師年齢の構成は比較的均衡がとれており、構造的にも合理的であるが、職業高校のそれはそれほど合理的ではなく、とくに31歳～40歳の間に「断絶」現象が明らかに見られる。これによって、30歳以下の青年教師に過重な勤務と責任が負わせられ、また41歳以上の教師にも余分の負担がかけられるので、当面このことは重視すべき事柄である。

4-5-4 中等専門学校の専門科目別の生徒数と教師数の比較

図表23に示されたように、中等専門学校は、科目によって専門課程の教師と生徒との比が異なってくる。特に管理・財経関係学科の専任教師は遥かに足りないという実状である。

5 後期中等教育段階の普通学科と職業学科の分離状況

1994年から1996年までの3年間、上海市中等教育段階における普通学科と職業学科の変化の状況は図表24の通りである。上海市の現有人口の年齢別構成の状況から、2010年にかけて、上海市後期中等教育段階の人口図が馬鞍の形のような傾向がある。そのうち、1997年から2004年には高くなり、年平均18万人、一番高い年は20万人に達する。しかし、2005年から2010年に、高校段階の人口数が明らかに減り、年平均9.6万人である。従って、今後の後期中等教育の発展が学齢人口の激しい変化につれ、深刻な問題に直面すると考えられる。

第2部 労働力市場の状況

1 概況

(1) 上海市の労働力の基本状況

【概況】1996年上海市の企業従業員数は、455.87万人、1995年に比べて14.69万人の減少が見られた。そのうち、国有企業〔部門〕は313.69万人で、10.50万人の減少、集団所有制部門は77.59万人で、3.34万人の減少、その他の部門は64.59万人で、0.85万人の減少が見られた。それと同時に、都市部の自営業労働者は7.74万人で、1995年より0.2万人の増加であった。1996年上海市の都市部において、新安置の就労数28.77万人を含めて全部の就労従業員数は560.84万人であり、1995年と比して0.5%の減少である。都市部に登録した失業率は2.8%、1995年とは変わらない状況である。

【上海市私営企業の人材状況】1996年の初めに、上海市人事局は私営企業に対する初めての人材状況サンプル調査を行った。その結果によれば、「専門技術人材が相対的に集中し、知識人が合理的な構造で密集しているが、雇用側は自らの意志で人材募集することが難しいし、人材の使用管理はまだ不規範である。しかも人材の流動は激しいという問題点」があるとされている。今回調査した899のサンプルは、比較的各類型ごとの人材が多く占める私営工業型企業と科学技術型企業が多数である。これを基準とし、上海市においてすべての市営企業に勤務する人材の総量を計算すると、2万人になるというのが統計の結果である。その内訳は、専任8.24%、兼職4.1%。また学歴別から見れば、短大・大学卒の比率が53.8%で（その比率は上海市の国営企業・事業体のそれと比べて遥かに高い）、中等専門学校卒19.11%、高校とその以下の卒業27%である。年齢別から見れば、

35歳以下29.9%、36 - 45歳24.3%、46 - 54歳13.79%、55歳及び以上31.95%となっている。

【上海市ハイテク産業の人材資源の状況】1996年において上海市人事局が市建設委員会・市経済委員会・市農業委員会・市交通管理局などの部門に対するハイテク産業の専門技術・管理職状況の調査を行った。調査対象とした436名の専門技術・管理職のうち、レベル別に見れば、高級、中級、初級がそれぞれ25.2%、44.5%、30.3%となっている。また、約69%のものが一回だけ転職したことがあったということは、一般的に職業に定着していることが分かる。約85%の者は自分の才能がよく発揮できた、24%の者はまだ十分に発揮できず、85%の者は、専門的な面では基本的に適している、87%の者は自分の現有の知識とポストの要求とが一致しているとみなしている。

(2) 離職労働者の再就職プロジェクト

【再就職サービスセンターの創立】1996年には、市政府の指導の下、再就職プロジェクトが実施されはじめ、しかも一定の成果を収めてきた。例えば、紡績、電機業界が再就職サービスセンターの実験活動を始めてから、離職者をそのまま企業内に残さないように、また簡単に企業外に追い出さないように努力し、一旦離職した者に職に就くように有利な条件を提供した。

【市労働組合総会による3万人の再就職】1996年上海市労働組合総会が人材（労務）交流商談会を開催し、再就職訓練基地を建設、失業した個人が自力で自営事業を興すことを奨励し、また、第3次産業の事業体を整備するなど、積極的な措置を採った。それによって、3万人あまりの離職者が再就職することができるようになった。

【1997 - 1999年の上海市60万人再就職計画】「九・五」計画期間（1995 - 1996）、上海市は、国有企業の労働力構成を合理化するために、職業に就かない者を基本的になくすようという施策を取り上げた。例えば、1997 - 1999年の2年間に、分離・安置の方法で60万人を再就職させる予定がある。1996年11月12日の「上海市再就職プロジェクトの政策の宣伝・訓練クラス」で、上海市副市長である蔣氏は、「当面する上海市の再就職情勢は、労働力の総量が全体的に十分であるが、構造的矛盾が目立つという問題点がある」と指摘した。再就職をよくするため、蔣氏は、改革的立場から、職業観念の転換、失業者の分散、より多く就職ポストの創出、また、社会的保障措置の充実などの方法があると述べた。それを実現するため、以下の七つ関連施策を取り上げた。即ち、①離職・失業した者の実状にかんがみて、年齢別ごとに異なる方法で、区別的な指導を行う；②職業観を転換させ、現有の政策を生かして、積極的に分離の方法を主とする；③就職ルートを開拓し、必要な奨励を推進し、次第に区一町〔街道〕 - 自治会〔里〕という三つレベルから構成される組織体系の形成；④雇用・採用政策を離職者に傾斜をかける；⑤労働力市場の健全化し、労働力の需要予測・職務訓練を強化する；⑥職業教育の新しい体制の構築に向け、職業教育を強化し、労働力の素質を高めるようにする。

(3) 法制の強化、労働力市場の整備

【上海市の人材市場〔日本の職業安定所にあたる〕の職員に「許可証」で管理を】『中華人民共和国行政処罰法』において法律を執行する者が「当事者に法律を執行する際、許可証を出す義務がある」という規定を実施するため、上海市人事局は1996年末「上海市行政関係法を執行する者〔人材市場関係〕のため特別の学習クラス」を開催し、約80名の人材市場管理者が訓練を受けて合格し、許可証書を獲得した。

【上海市「経営者の移動のための身上調書など書類管理に関する暫定規定」の実施】工場長・部門

責任者という「経営者」が職業移動を便利にするため、また人的資源を合理的に配置するため、管理職を職業化・市場化するため、上海市工場長・部門責任者人材会社〔コンス公司〕が1996年末に『経営者の移動のための身上調書など書類管理に関する暫定規定』を制定した。その内容は①「経営者」転職者の人事文書の管理範囲、「経営者」転職者の人事文書〔人事管理の重要文書である。「文書」に記載される事項は、氏名、性別、生年月日、民族、学歴、結婚、本籍、現住所などの一般的な経歴にとどまらず、「出身階級」、「本人の所属階級」、「所属政党」、「親友関係」など細部にわたる。高校入学時から記録されはじめ、以後一生ついて回り、入試、就職、転勤、昇進、留学などに際して重要な役割を果たし、「人事部」などの人事担当部門に厳重に保管され、本人は見ることがない〕の管理順序、「上海市工場長・部門責任者人材会社」の「経営者」転職者に対する管理責務、「経営者」転職者の人事文書の管理費用等四つである。人事文書管理の範囲に含まれる者は、工場長・部門責任者・総会計士・総経済師・総技師・部門支配者で、外資企業・「合作」企業の中国側代表・外国の上海事務局所に駐在する中国側の高級人員、上海市に滞在する外地の高級管理職員、その他の上海市工場長・部門責任者人材会社に許可された人々である。

【上海市人事局『上海市人材サービス機関の管理を強化する実施措置』の公布】国家人事部・上海市人民政府の関係規定に基づき、上海市人事局は1996年末に『上海市人材サービス機関の管理を強化する実施措置』を公布した。本措置は15条からなり、人材交流サービス機関についての若干重大な問題に関する規定を明確にした。

【上海市人民代表大会『上海市人材の流動に関する規定』の審議・可決】上海市第10回人民代表大会常務委員会第32回会議に審議された『上海市人材の流動に関する規定』が1997年4月1日に正式に実施できるようになった。『条例』においては、上海市人材流動サービス管理部門および関係責任部門の責務ならびに個人転職の期間中の規範、人材交流サービス機構の設立条件と手続き、さらに『条例』に違反する法律上の責任などが明確に規定された。

【『上海市外資企業の労働人事管理条例』の公布】1996年1月29日に上海市人事局は『上海市外資企業の労働人事管理条例』を公布した。「条例」の内容は8部からなる。例えば、専門技術者と管理者の募集、大学と中等専門学校の卒業生の募集、または省（市）外からの専門技術・管理者の募集、就労・住民票申請、国外の専門家と留学生の導入政策、および人事争議処理、専門技術資格認定の審査などについて詳しく規定した。

【上海市人材交流サービス機構を74個所設立】1997年1月までに、上海市にはすでに74個所の人材交流サービス機構が設立され、1995年末に比べて11個所が増えた。新設の機構の中では、区・県行政及び業界以外の専門サービス機構が多く増加した。

(4) 労働力市場の国際化への進展

【5,000人の外国人が上海市で就労証書を獲得】上海市労働局は、国家公安局・労働部の改正『外国人中国での就職に関する管理規定』の精神に基づいて、1996年5月から外国人及び香港・マカオ・台湾人に対する上海市での就職時の就職証明書の申請制度が実施し、大きな成果を得た。上海市関係事務局の統計によると、1996年11月までに、外資企業あるいは合併会社の外国代表の人数は、6,000余名である。そのうち、高級管理職、例えば総経理・財務総監・人事総監または高級技術者などが85%以上を占めている。その他、一部の生産顧問あるいは施工監理は上海市の重点建設の工程、科学技術共同研究項目に参加している。

2 市場予測

上海市職業技術教育研究所及びそれに所属する康培情報センターの追跡統計によると、1996年の一年間において、上海市では、中国の上海人材市場、上海職業紹介センター、『人材市場新聞』『労働情報新聞』と『新民夕刊』などで募集された人材の総数は218,630人に達し、毎週平均4,204人になる。それにとどまらず、上海市人材市場に求職する人数は年232,677人、週4,475人であるが、実際募集した人数は統計上よりもっと多くなることが分かっている。

以上の出所からの情報分析によると、上海市1996年の労働力市場においては以下の特徴が示されている。

- (1) 上海市の労働雇用制度上、市場化の進展が明らかである。同じ統計によると、1996年に市場ルートで募集された人材は1995年の3倍となる。過去の国家に頼っていた雇用者はすでに人材市場に頼って労働力を募集するようになっている。
- (2) 上海市の就労状況は厳しくなっている。1996年上海市はただ人材市場という一つのルートを通して求職した人数が、統計上の需要総数を超え、労働力の募集数より応募数がはるかに上回っている。上海市の状況によると、平均職位(就職チャンス)ごとに5人の求職者がある。
- (3) 労働力市場の発展が週ごとに不均衡である。1996年に週平均募集数が4,204人であるが、最も少ない週(第9週)は1,661人であるのに対して最も多い週(第44週)は9,367人であり、両者の差は1:5.6となる。また、応募のほうからみると、週に平均4,475人であるが、最も少ない週(第8週)の1,380人と、最も多いの週(第44週)は31,750人とその差は1:23であった。市場の動きからみると、上海市人事局と中国国営上海市人材市場によって開催された、春季と秋季の2回の大規模な技術人材交流商談会は、上海市の労働力市場に対する「(強制的)コントロール」行為として、大きく影響を及ぼしている。
- (4) 「購買係と販売係」職業は人気職種として、6年連続職業需要のトップになっている(第6週を除く)。その他の人気職種が、「国家公務員」(第32週と第47週)、「中等教育(学校)教師」(第21週)、「工場操作員」(第31週)、「店員」(第40週)、「公共娯楽・遊覧施設サービス係」である。
- (5) 市場による募集職種数が大幅に増加した。1995年で上海市は180職種のうち、募集数が100人を超えた職種はわずか41職種で、職業分類(総計303)の13.5%を占めていたが、1996年には223職種に達し、100人を超えた職種101で、全部の職業の33.3%を占めており、1995年より20%の増加となった。
- (6) 上述の統計資料によると、年間実需要量のうち、第3次産業に関係する職種数とその多数であり、トップの6種類はすべて第3次産業に属する。その6職種の実需要量は115,724人で、総数の52.9%である。そのうち、第1位である「購買係と販売係」が、実需要量は61,849人で、総数の28.3%を占めている。
- (7) 新興職業(主に投資顧問、先物経理、市場調査員、証券投資分析員を指す)の発展が速く、その実需要量が総数の中で第17位となっている。

労働力市場はまだ始まったばかりの段階にあるので、各方面の準備が不十分で、とくに総合的情報・統計の管理が欠如し、全面的市場分析にかなりの困難をもたらしていることは注意すべきである。ここで扱った統計資料は、雇用側(部門)が中国の上海人材市場、上海市職業紹

介センター、『人材市場新聞』、『労働情報新聞』と『新民夕刊』を通し、社会に直接募集した人数だけであるが、それぞれのルートを利用して職につく人数は含まれていないのである。従って、上述のような統計分析は、1996年の上海市労働力の全体像ではなく、ただその一部であることを了承してもらいたい。その他、本統計資料は、1996年度の一部の状況を反映したものであるけれども、今後の発展傾向を示すものではないことを断っておく。